

ひとや地域（まち・文化・教育）の well being に貢献する 文系 DX 人材の育成事業

文部科学省 「地域活性化人材育成事業～SPARC～」



ひとや地域(まち・文化・教育)の well beingに貢献する文系DX人材の育成事業

大学等連携推進法人の設置

教育未来創造会議では、未来を支える人材育成において在りたい社会像を実現するための重要な視点として、一人ひとりの多様な幸せと社会全体の豊かさ[ウェルビーイング(well being)]を挙げています。幸せには、経済的な豊かさだけでなく、精神的な豊かさや健康も含まれ、文化と教育はその基盤となるものです。

地域(地方)には、少子高齢化や過疎化、人と人とのつながり(コミュニティ)の希薄化などの課題があります。これらをAI(Artificial Intelligence)やIoT(Internet of Things)などのデジタル技術による直接的なデジタルトランスフォーメーション(DX)で解決しようとする取り組みは多くみられますが、本来はこれらの技術を適用する前に、地域課題と解決へのアプローチの仕方を適切に見定める必要があります。「ひと」と「まち」の観点から人間や社会・環境の幸福な状況を問い直すウェルビーイングは、このために有効な考え方であると言えます。

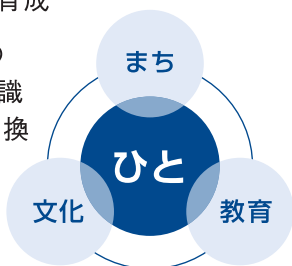
本事業では、このウェルビーイングの考え方に立ち、デジタル技術者と協力してDXを推進し、ひとや地域(まち・文化・教育)の課題解決のために貢献できる人材を、「文系DX人材」と呼び、山口大学・山口県立大学・山口学芸大学の3大学が協力して育成します。事業実施にあたり、3大学は「大学等連携推進法人」を設置(2023年3月)しました。



Society5.0に向けて

人間中心の視点から 地域活性化への大学協働

- 地域課題を適切に捉えてDX実践できる人材を育成
- 山口県産業の装置型から知識集約型への転換に貢献



全国初の国公立大学による大学等連携推進法人の設置

大学等連携推進法人

令和5年3月設置

文化 まち 山口県立大学

国際文化学部の再編

……令和7年4月設置予定……

〈養成する人材〉

地域社会の未来をリデザインし、人々の暮らしのDX推進に貢献できる人材

まち ひと 山口大学

ひと・まち共創学環(仮称)の新設

……令和7年4月設置予定……

〈養成する人材〉

人間の心理・行動の理解と地域社会に対する分析力を基礎として地域課題の発見と解決ができる文系DX人材

教育 文化 山口学芸大学

小・中STEAM人材育成コース(仮称)の新設

……令和8年4月開始予定……

〈養成する人材〉

将来のDX推進に貢献できるSTEAM人材を育てる教員

SPARC教育プログラムの概要

「文系DX人材」を育成するため、「SPARC教育プログラム」で身に付ける3大学共通の資質・能力を設定しました。

身に付ける資質・能力

- ① 物事を俯瞰(メタ)的に捉え思考する力
 - ・幅広い基礎教養と思考法
 - ・地域課題解決に資する基礎的専門知識(分野横断的に学習)
- ② 知的財産に関する知識
- ③ データサイエンスに関する知識・技能
- ④ 地域の特性や特色を理解し、自ら課題を抽出できる力
- ⑤ 課題解決においてDXを実践できる知識・態度
- ⑥ 課題に対して、身につけた知識や技能を活用して解決に向けた企画・立案ができ、他者と協働して解決を図ることができる力

系列及び科目(群)

「SPARC教育プログラム」は、大きく分けて「STEAM人材育成系列」と「DXによる地域課題解決(PBL)系列」からなり、各系列には以下の科目(群)で構成します。

STEAM人材育成系列

上述の資質・能力のうち、①、②、③を身に付けるため、以下の4科目(群)を実施します。

分野横断的教養科目群

各大学はSTEAMの構成要素を「科学・技術」(S・T)、「人間・文化」(A)、「社会・環境」(T・E)の3つとし、教養科目と対応させています。

分野横断的専門科目群

各大学が目標とする文系DX人材の専門教育のための基礎的専門科目(A・S)を設定します。

データサイエンス科目

山口大学から、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)の認定を受けている科目や人工知能概論等のデータサイエンス科目(S・M)を、山口県立大学、山口学芸大学に提供します。

知的財産教育

知的財産教育全国拠点である山口大学から、知的財産教育科目を山口県立大学、山口学芸大学に提供します。

DXによる地域課題解決PBL系列

上述の資質・能力のうち、④、⑤、⑥を身に付けるため、以下の3つの科目(群)を設定します。

DX概論

DXの背景、概念、重要性などを理解し、県内の企業等の事例から、DX推進の手法としてのデータやデジタル技術の活用法の概要について学びます。

地域学

地域の特性や地域が抱える課題を認識し、自ら課題を設定し、その解決にチャレンジするための素地を培います。課題解決PBL科目の導入要素として、PBLの手法を学習します。

DXによる地域課題解決(PBL)

身に付けたSTEAMの基礎的素養とDXによる課題解決を活用したPBLを3大学共同で実施します。

SPARC教育プログラム



STEAM人材育成系列

分野横断的科目群

分野横断的科目群

分野横断的科目群

データサイエンス科目
(山口大学提供)

データサイエンス科目
(数理・データサイエンス・AI教育プログラムに認定)

データサイエンス科目
(山口大学提供)

知的財産教育(山口大学提供)

知的財産教育

知的財産教育(山口大学提供)

DXによる地域課題解決(PBL)系列

DX概論(山口大学提供)

DX概論

DX概論(山口大学提供)

地域学※PBL手法を含む

地域学※PBL手法を含む
(山口県立大学提供)

地域学※PBL手法を含む
(山口県立大学提供)

DXによる地域課題解決(PBL)※3大学共同実施



山口県立大学 学長
田中 マキ子

山口大学 学長
谷澤 幸生

山口学芸大学 学長
三池 秀敏

3大学の連携による「SPARC教育プログラム」 学長インタビュー

山口県立大学

PBL型の「地域学」、文理融合の「総合知」で豊かな未来。

山口県立大学は、地域の要請に応える「地域貢献型大学」として、健康や福祉・文化の分野で専門教育を行い、優れた地域人材を輩出しています。SPARC事業では、こうした得意分野を生かし、PBL＝課題解決型学習の手法を取り入れた「地域学」を連携開設科目として提供します。

PBLは、知識の暗記など受動的な学習ではなく、自らが問題を見つけて解決する能力を養います。キャンパスを出て地域(人や企業など)と関わり、その中で解決すべき課題を発掘して、解決策を探索します。本学の国際文化や社会福祉、看護栄養、さらに連携大学の多くの学生が、ともに地域を学ぶことで、豊かな未来を描き人々が豊かに暮らせる地域社会づくりを目指します。

DXは理系の領域と思われがちですが、活用するためには理系や文系の枠を超えた「総合知」が必要です。文系の人もデータを読み解き、また理系の人は文系に触れることで視野を広げ、ともに新しい価値が創造できます。理工系に進む女子が少ない中で、女性のDX人材育成にも力を入れます。

山口は少子高齢化の全国上位県です。その抱える課題は日本、そして世界の課題でもあります。SPARCで学んだ若い文系DX人材が、地域や職場のDXリテラシー(活用能力)を高めて課題を解決し、各地域が特有の地域資源を生かして自立していける分散型社会の構築に貢献することを期待します。

山口大学

データサイエンス教育を活用。人間の心理・行動の理解等を基礎とするDX人材を育成。

山口大学は9学部8研究科からなる地域の基幹総合大学です。常に改革・改善に取り組み、DX推進の基盤となるデータサイエンス教育をいち早く全学に取り入れています。

SPARC事業で連携開設科目となる「データサイエンス」は、AIやIoTなどデジタル技術で集積されたデータから、有益な知見を得ようという学問分野です。これまでの勘や経験などに基づく方法ではなく、数学や統計学、プログラミングなどの理論を用いてデータの分析や解析を行い、科学や社会、ビジネスなどに役立つ価値を引き出します。

活用シーンは、製造や販売の現場、医療・健康、農業、漁業、公共、教育、

防災など多岐にわたり、今後ますます広がります。データを見るときには、理系の理論だけでなく社会と人間の行動メカニズムや多様性への理解も重要です。山口大学では「ひと・まち共創学環(仮称)」を新設(2025年4月予定)し、人間の心理・行動の理解と地域社会に対する分析力を基礎として、地域課題の発見と解決ができるDX人材を育てます。

DX推進が喫緊の課題となる中で、特に即戦力人材の社内育成が難しい中小企業からは、リカレント教育や、社会の変化に対応して新たに必要とされるスキルを習得するリスキリング教育の役割も期待されており、このようなニーズも大事にして対応します。

山口学芸大学

STEAM教育とPBLにより、将来のDX人材を育てる教員を養成。

山口学芸大学は、芸術を基盤とする教育を通して、教育者・保育者を輩出する教員養成大学です。運営する学部学園は2021年、10年後を見通した「学園ビジョン2030」を策定し、Society5.0(超スマート社会)の時代に求められる人材の育成に努めています。

SPARC事業では、「文理横断型のSTEAM教育」と「DXによる地域課題解決PBL」を展開し、将来のデジタル変革を支える子どもたちを育て、地域の課題発見や解決に貢献できるより質の高い教員を養成します。

STEAMは、理系領域の科学・技術・工学・数学の頭文字＝STEMに、Art(アート)のAを加えたものです。Artについて政府は、「デザ

インする力を軸にした、芸術・文化・生活・経済・法律・政治・倫理等を含めた広い範囲」と定義しています。デザインは近年、課題に対する最適の解決策を導くデザイン思考が注目されるなど、その力を軸にした学びはDX推進、新しい社会を創造する上で大事です。

教育現場では、小学校のプログラミング授業、中学校で情報の学習など教育改革が進んでいます。一方、IT系の人材は2030年に最大79万人が不足するという推測もあります。こうした中で、SPARCで育った教員が地域コミュニティとつながり、教育・保育・子育て等に関わることは、地域社会の発展にさらに大きく寄与すると確信します。

【発行】山口大学総務企画部地域連携課

〒753-8511 山口市吉田1677-1
TEL:083-933-5630/FAX:083-933-5029

2023年3月

